

2019年度 独創的研究助成費 実績報告書

2020年 3月24日

報告者	学科名	看護学科	職名	教授	氏名	関根紳太郎
研究課題	BYODによる英語学習のための学内教育環境整備: ICT 英語教育の進展と脱 CALL 化					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	関根紳太郎		看護学科・教授	メディア英語学、言語文化論	実施責任者
	分担者					
研究実績の概要	<p>【研究目的】 本研究の目的は、本学における英語教育のより一層の推進とともに、近年の緊縮財政の中で、中長期的視点から最大限に英語学習支援機器およびそれらを活用した学習環境を整備することにある。実際、毎年入試状況が変動するため、入学者数は流動的である。また、再履修者も若干名含まれることがあり、一部の学科においては、英語クラスの履修登録者数が、現行コンピュータ演習室の定員45名を超えることがしばしばある。</p> <p>こうした教務上の問題に加え、年間100万程度のコンピュータ演習室の維持費が財政的に圧迫しているという経理上の事情も深刻化している。</p> <p>そこで、本研究では、<u>受益者負担の原則を導入し、大学の設備・備品に極力依存しない、学習者所有の情報端末を利用した学習環境の構築であるBYOD (Bring Your Own Device) の仕組みづくり</u>に取り組んだ。また、BYOD化とともに、学習者自身の情報端末に必要なアプリやeラーニング教材を取り入れることで、授業外学習に対する動機付けにもつなげることも試みた。</p> <p>【実施方法】 前期科目(ELP5)では、看護学科2年41名を、後期科目(ELP6)では、保健福祉学科2年38名をそれぞれ対象として、授業開始時から10分程度、ウォーミングアップを兼ねて本学が導入している英語eラーニング教材・ALCNextを実施した。その際、各学生所有のスマートフォンもしくはモバイルデバイスを活用させた。また、インターネット同時複数台アクセスによる回線状況の悪化を防ぐねらいから、従来のOPUWirelessのほか、学務事務班と連携し、8901教室に別途2台のモバイルアクセスポイントを毎授業時に設置した。さらに、ウェブ上からダウンロード可能な英語音声ファイル(MP3形式)と連動したテキストを採用し、演習内容に応じて、各学生が個別に聴く時間を最初にとり、その後全体で内容確認を行った。これにより、<u>従来の教員主導による一方向型の音声提供を回避し、学生個人のペースにあった(カスタマイズされた)リスニングの機会を用意することをねらいとした。</u></p> <p>【学生による評価およびその分析】 上記の実施方法に基づき、授業を実践し、学期末に各クラスで以下のようなアンケートを実施した。</p> <p>【アンケート項目】 Q1 電子教材を活用した学習であるeラーニングは好きだ Q2 eラーニングをすることで自学自習の癖がつくと思う Q3 eラーニングは毎日5~10分程度ならできる</p>					

※ 次ページに続く

- Q4 コンピューター演習での e ラーニングは好きだ
 Q5 自分のスマホ等を活用した BYOD 型の e ラーニングは好きだ
 Q6 BYOD 型の e ラーニングは自分のペースで学習しやすい
 Q7 BYOD 型の e ラーニングは近くの友人やグループの学習にも効果的だ
 Q8 BYOD 型ではなく、タブレット端末等を貸与してほしい
 Q9 授業のウォーミングアップとしての e ラーニングは効果的だ
 Q10 テキストと連動した（ウェブ上の）音声教材の活用は効果的だ
 Q11 学内無線 LAN 環境には満足している
 Q12 ELP5クラスでは試行した無線 LAN アクセスポイントの追加は必要だ
 Q13 BYOD 型は、スピーキング重視の授業でも効果的だと思う
 Q14 普通教室の BYOD 型に加え、コンピューター演習室での授業も必要だ
 Q15 今後 BYOD 型授業に適したヘッドセット（ヘッドホン）を購入したい

回答結果が以下の通りである。質問項目については別添資料を参照されたい。

(※回答：つよくそう思う＝4、そう思う＝3、どちらとも言えない＝2、そう思わない＝1)

研究実績
の概要

	看護学科 2 年 (41 名)				保健福祉学科 2 年 (38 名)			
1	24.4	56.1	9.8	9.8	26.3	39.5	23.7	10.5
2	17.1	41.5	26.8	14.6	7.9	36.8	42.1	13.2
3	31.7	39.0	19.5	9.8	26.3	44.7	21	7.9
4	4.9	19.5	43.9	31.7	15.8	34.2	42.1	7.9
5	31.7	39.0	22.0	7.3	23.7	50	23.7	2.6
6	34.1	48.8	14.6	2.4	34.2	42.1	21.1	2.6
7	24.4	24.4	43.9	7.3	23.7	36.8	31.6	7.9
8	7.3	17.1	34.1	41.5	5.3	18.4	36.8	39.5
9	26.8	56.1	9.8	7.3	31.6	47.4	15.8	5.3
10	29.3	53.7	12.2	4.9	28.9	52.6	7.9	10.5
11	36.6	34.1	14.6	14.6	28.9	7.9	26.3	36.8
12	22.0	29.3	36.6	12.2	34.2	31.6	18.4	15.8
13	19.5	24.4	51.2	4.9	15.8	57.9	23.7	2.6
14	7.3	14.6	43.9	34.1	7.9	28.9	39.5	23.7
15	7.3	4.9	24.4	63.4	2.6	10.5	28.9	57.9

このアンケート結果から以下の学生の学習志向が読み取れる。

- ・電子教材を活用した学習である e ラーニングに好意的である。
 - ・ e ラーニングは毎日5～10分程度なら（肯定的に）できる。
 - ・自分のスマホ等を活用した BYOD 型の e ラーニングに好意的である。
 - ・ BYOD 型の e ラーニングは自分のペースで学習しやすいと考えている。
 - ・授業のウォーミングアップとしての e ラーニングには前向きに取り組める。
 - ・テキストと連動した（ウェブ上の）音声教材の活用は効果的であると考えている。
- 一方、次の点については否定的な印象をもっていると考えられる。
- ・コンピューター演習室での e ラーニングはそれほど好きではない。
 - ・ BYOD 型で個々が所有するスマホ等の活用を好み、タブレット端末等の貸与はそれほど必要としていない。
 - ・学内無線 LAN 環境に十分満足しているとはいえない。（時間帯にもよる）
 - ・ ELP5/6クラスで試行した無線 LAN アクセスポイントの追加は必ずしも必要ではない。
 - ・ BYOD 型は、スピーキング重視の授業でも効果的だとある程度考えている。